

湘語のアスペクト表現について

王 振宇

アブストラクト

本論文は中国七大方言の一つ、湘語の各下位方言のアスペクトを比較の視点から考察したものである。まず、湘語の「完了」表現として、K類助詞とT類助詞が最もよく使われる。K類助詞は数量補語がなければ、目的語を後ろに伴うことができないことや先行動詞の意味的制限を受けることなどから、T類助詞に比べて結果補語に共通する一面を持っている。次に、「持続」表現としてはT類助詞と“起”が用いられる。湘語のT類助詞は文法機能上、場所前置詞“到”と相補関係を成しており、“到”から発展してきたものであると考えられる。“到”は古代漢語“著”の場所名詞を導く機能を受け継いだ、その<空間性>が剥脱された結果、アスペクトの意味を獲得し、音声的变化を起こしてアスペクト助詞になった。“起”は多くの湘語において「動作持続」を表せず、「結果状態の持続」を表す。南部湘語では持続を表すT類助詞と“起”との競合がすべての動詞に起きており、「結果状態の持続」の意味領域を侵食しているといえる。最後に、アスペクトとモダリティの関連性の視点から、持続のアスペクト表現とモノの存在を表す場所詞句との関係を考察した。空間表現がアスペクト表現へ、さらにモダリティ表現へと変化する現象は漢語方言の枠を超え、標準日本語および日本語方言に視野を広げて見れば、漢語方言に特殊なものではなく、一つのユニバーサルな現象であると分かった。

キーワード：アスペクト、完了、持続、モダリティ、漢語方言、湘語

0. はじめに

湘語は中国の七大方言の一つである（図1参照）。主に湖南省、及び広西省の一部で使われ、使用人口がおよそ3,438万人である（陳暉、鮑厚星（2005）参照）。

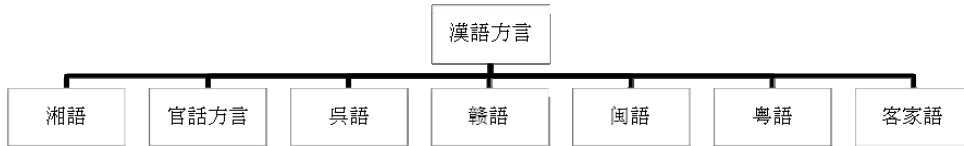


図1 漢語七大方言（詹伯慧編（1991）をもとに筆者作成）

湘語の研究は他方言に比べて遅れている。最初に湘語を漢語の一大方言と認めたのは、1937年に公表された李方桂の論文 language and dialects（『中国年報』：121～128）である（鮑厚星（2006：总序）参照）。そして、現代言語学理論を用いて湖南省内の方言を調査したのもとして、最も早いのは趙元任、丁声樹などを中心に中央研究院歴史語言研究所が1935年に行った湖南方言の調査である。その後、湖南師範学院の『湖南省漢語方言普查総結報告』（1960）、中嶋幹起の『湘方言調査報告』（1987-1990）などの研究成果が相次いで公表された。とくに、1996年から2009年にかけて出版された『湖南方言研究丛书』、『湖南方言语法系列』、『湘方言研究丛书』という3つの叢書は湘語の研究を大いに促進した。『湖南方言研究丛书』は10地点の湘語を取り上げ、音韻、語彙、文法の特徴を記述している。『湖南方言语法系列』は項目別に、アスペクト助詞、介詞、代詞、語気助詞、副詞の5つの文法項目を1冊ずつにまとめ、各項目に15地点前後の方言データをあげている。『湘方言研究丛书』は総論の『湘方言概要』を除き、他の4冊がそれぞれ音韻、語彙、アスペクト、ヴォイスといったテーマを取り上げている。叢書のほかに、『湘語语法研究』、『益陽方言语法研究』などの単行本や、『湘方言音韻比較研究』、『湘語音韻历史层次研究』などの学術論文も相次いで公表された。こうして、20世紀

90年代から盛んになってきた研究によって、湘語データが多く蓄積された。本論文は湘語の各下位方言の aspekto を比較の視点から考察する。本論文で使用する方言データの出自については最後に挙げるが、蔡橋方言についてのみ、筆者のフィールド調査で得られたものである¹。

1. 湘語の「完了」表現について

湘語における「動作の完了」の aspekto 的意味は伍云姪 (1996) によると、“整体完成” (全体完了) と “部分完成” (部分完了) の二種類に分けられる。「全体完了」は「動作の完了」を表すと同時に、「客体の消失」という意味を必ず伴う。「全体完了」を表す助詞は殆どの湘語方言に分布している。その音声には、[ka] (邵陽、長沙、益陽、東安、衡東、衡陽、冷水江、漣源、零陵、婁底、南県、祁東、桃江、望城、湘郷、新化、新寧、叙浦、益陽、永州、珠洲など)、[ku] (衡山、隆回、邵東)、[kua] (城歩、洞口、祁陽、武岡など)、[ka] (寧郷)、[ke] (双峰) などのバリエーションが存在しているが、舌根破裂音 [k] を子音とする点において共通している。本論文では伍云姪 (1996) に倣い、湘語における「全体完了」表す助詞を「K 類助詞」と総称する。蔡橋方言の aspekto 助詞 “刮” ([kua]) はこの類に属する。「部分完了」は動作客体を与えた影響について関心を持たず、「動作の完了」のみを表す。「部分完了」を表す助詞は [ta] (長沙、衡東、衡山、衡陽、南県、桃江、望城、湘潭、益陽、元江、岳陽、珠洲など) や [ta] (寧郷など) などのような舌尖破裂音 [t] を子音とするグループと [li]、[le]、[la] (婁底、湘郷) のような側面音 [l] を子音とするグループに分けられる。前者は主に湖南省北部に分布しているが、後者は主に湖南省南部に分布している。本論文は伍云姪 (1996) に倣い、湘語における「部分完了」を表す2つの助詞グループをそれぞれ「T 類助詞」、「L 類助詞」と総称する。蔡橋方言の “倒” ([tau]) は T 類助詞に属する。L 類助詞として [li] (“哩”) が挙げられるが、文末位置にしか用いられない点において、多くの北部湘語と異なっている。本節では、湘語の K 類助詞、T 類助詞、L 類助詞の意味用法について見ていく。

1.1 K 類助詞

湘語の K 類助詞は [ka]、[ku]、[kua]、[kuo] などの音声的バリエーションがあり、“咖”、“咕”、“刮”、“夾”、“介” などの漢字で表記される。湘語の K 類助詞は蔡橋方言の “刮” と同様、基本的意味として「動作の完了」を表すが、先行動詞による語彙的意味の制限を受けている。つまり、「消失、離脱」などの意味を含む動詞に接続できるが、一方、「獲得、附着」などの意味を含む動詞には接続することができない。次のような K 類助詞を用いた文はいずれも「動作客体の消失」という付随的意味を含んでいる。たとえば、

- | | | | | | | | |
|-----|-------------------|------------------------------------|----|------------|-----|------------|--------|
| (1) | 担 | 米 | 双 | 鞋子 | 穴 | <u>刮</u> 。 | [湘語蔡橋] |
| | PREP ² | あの | 足 | 靴 | 捨てる | ASP | |
| | | [あの靴を捨てなさい。] (把那双鞋扔了。) | | | | | |
| (2) | 一 | 出 | 窩 | 就要 | 失 | <u>咖</u> 。 | [湘語長沙] |
| | すると | 出る | 巢 | すぐに | なくす | ASP | |
| | | [(鳩が) 巢を出るとすぐに見えなくなる。] (一出窝就会丢了。) | | | | | |
| (3) | 拿 | 衣 | 取 | <u>刮</u> 。 | | | [湘語常寧] |
| | PREP | 服 | 脱ぐ | ASP | | | |
| | | [服を脱ぎなさい。] (把衣服脱了。) | | | | | |

K 類助詞は時間量や数量を表す成分を後ろに伴う場合、動作客体の消失を表せず、当該の動作がその時間量や数量を持って完了した意味を表す。

- | | | | | | | | |
|-----|---|-------------------------------|----------|-----------|-----|----------|-------------|
| (4) | 己 | 去 | <u>刮</u> | <u>一回</u> | 上海。 | | [湘語蔡橋] |
| | 彼 | 行く | ASP | 一回 | 上海 | | |
| | | [彼は上海に一回行ったことがある。] (他去过一次上海。) | | | | | |
| (5) | 我 | 在 | 草坪 | 里 | 坐 | <u>咖</u> | <u>一天</u> 。 |
| | | | | | | | [湘語長沙] |

- 私 PREP 芝生 中 座る ASP 一日
 [私は芝生に一日中座った。] (我在草坪里做了一天。)
- (6) 毛毛 哭 咖 一 上午。
 赤ん坊 泣く ASP 丸ごと 午前
 [赤ん坊が午前中ずっと泣いた。] (婴儿哭了一上午。)
- (7) 我 用 锄头 挖 介 两下。
 私 使う 鋏 掘る ASP 2回
 [私は鋏を使って2回掘った。] (我用锄头挖了两下。)
- (8) 己 一天 就 上 咭 三次 街。
 彼 一日 も 行く ASP 3回 街
 [彼は一日3回も街に出た。] (他一天就上了三次街。)

湘語の各方言におけるK類助詞の発展が決して均衡的なものではない。たとえば、長沙方言などの“咖”は“有”(有する)、“当”(成る)などのような動詞に接続することができるが(例(9)、(10)参照)、蔡橋方言の“刮”はこれらの動詞に接続することができない(例(11)、(12)参照)。長沙方言の“咖”は蔡橋方言の“刮”より意味の一般化が進んでいるといえる。

- (9) 她 有 咖 一 个 崽 哒。
 彼女 有する ASP 1 個 息子 MOD
 [彼女には1人の息子がいる。] (她有了一个儿子了。)
- (10) 多时 当 咖 妈妈 哒。
 とっくに 成る ASP 母 MOD
 [とっくに母になった。] (早就当了妈妈了。)
- (11) a. 己 有 一 个 崽 哩。
 彼女 有する 1 個 息子 MOD
 [彼女には1人の息子がいる。] (她有了一个儿子了。)
- b. *³己有刮一个崽哩。
- (12) a. 早就 当 娘 哩。
 とっくに 成る 母 MOD
 [とっくに母になった。] (早就当了妈妈了。)
- b. *早就当刮娘哩。

1.2 T類助詞

湘語のT類助詞は[ta]、[ta]、[tɔ]、[te]、[tau]、[tau]、[tao]などの音声的バリエーションがあり、“哒”、“叮”、“倒”、“到”などの漢字で表記される。湘語のT類助詞は「動作の完了性」も「持続性」も表すことができる。本節は前者を考察するが、後者については2.1節に述べる。

長沙方言、常寧方言、衡陽方言などの北部湘語では、T類助詞とK類助詞がいずれも「動作の完了」を表すことができ、対立の関係を成している。次に挙げる例文の中、K類助詞を用いた文は数量詞(“两盆”(2つの洗面器の量)、“一个礼拜”(一週間)、“三只鸡腿”(3個の鶏の足)、“一天”(一日))に焦点を当て、「量が多い」ことを強調している。一方、T類助詞を用いた文は単に「動作の完了」だけを表すという(吳启主1996; 彭兰玉1996)。

- (13) a. 洗 咖 两 盆 水。
 洗う ASP 2 洗面器 水
 [洗面器二杯分も水を使って洗った。] (洗了两盆水。)

- b. 洗 哒 两 盆 水。 [湘語常寧]
 洗う ASP 2 洗面器 水
 [洗面器二杯分の水を使って洗った。] (洗了两盆水。)
- (14) a. 卖 咖 一 个 礼拜 哒。 [湘語衡陽]
 売る ASP 1 個 週 MOD
 [一週間も売った。] (卖了一个星期。)
- b. 卖 哒 一 个 礼拜 哒。 [湘語衡陽]
 売る ASP 一 個 週 MOD
 [一週間売った。] (卖了一个星期。)
- (15) a. 我 早上 吃 咖 三 只 馒头。 [湘語長沙]
 私 朝 食べる ASP 3 個 饅頭
 [私はけさ饅頭を3つも食べた。] (我早上吃了三个馒头。)
- b. 我 早上 吃 哒 三 只 馒头。 [湘語長沙]
 私 朝 食べる ASP 3 個 饅頭
 [私はけさ3つの饅頭を食べた。] (我早上吃了三个馒头。)
- (16) a. 第二天 又 睡 咖 一天。 [湘語長沙]
 二日目 また 寝る ASP 一日
 [二日目はまた一日も寝過ごした。] (第二天又睡了一天。)
- b. 第二天 又 睡 哒 一天。 [湘語長沙]
 二日目 また 寝る ASP 一日
 [二日目はまた一日も寝過ごした。] (第二天又睡了一天。)

K 類助詞“咖”は量の多いことを強調するため、数量の少ないことを表す副詞“只”(ただ~だけ)とは共起しない。一方、“哒”はそういった含意を持たないため、“只”と共起することができる(伍云姫 2006 参照)。

- (17) a. *那 次 考试, 我 只 得 咖 八十 分。 [湘語長沙]
 あの 回 試験 私 ただ 取る ASP 八十 点
 [あの試験で、私は八十点しか取らなかった。] (那次考试, 我只得了八十分。)
- b. 那 次 考试, 我 只 得 哒 八十 分。 [湘語長沙]
 あの 回 試験 私 ただ 取る ASP 八十 点
 [あの試験で、私は八十点しか取らなかった。] (那次考试, 我只得了八十分。)

以上のように、長沙方言などの北部湘語において、「動作が(一定の量をもって)完了する」意味を表す K 類助詞と単に「動作の完了」を表す T 類助詞とが対立している。

一方、蔡橋方言などの南部湘語では、「主体動作動詞」⁴の述語文では、K 類助詞「刮」のみを用いて「動作の完了」を表すため、T 類助詞との対立的な関係がない。数量詞との共起が構文に要求される。

- (18) [湘語蔡橋]
- a. 我 做 刮 一 个 梦。 (K 類助詞)
 私 する ASP 一 個 夢
 [私は1つの夢を見た。] (我做了一个梦。)
- b. *我 做 倒 一 个 梦。 (T 類助詞)
 私 する ASP 一 個 夢

[私は1つの夢を見た。] (我做了一个梦。)

(19) [湘語長沙]

a. 我 做 咖 个 梦。 (K 類助詞)

私 する ASP 個 夢

[私は1つの夢を見た。] (我做了一个梦。)

b. 我 做 哒 个 梦。 (T 類助詞)

私 する ASP 個 夢

[私は1つの夢を見た。] (我做了一个梦。)

(20) [湘語蔡橋]

a. 后头 又 到 张方中学 读 刮 一年半。 (K 類助詞)

その後 また 行く 張方中学校 勉強する ASP 一年半

[その後、また張方中学校に行って一年半勉強した。] (之后又去张方小学学了一年半。)

b. *后头 又 到 张方中学 读 倒 一年半。 (T 類助詞)

その後 また 行く 張方中学校 勉強する ASP 一年半

[その後、また張方中学校に行って一年半勉強した。] (之后又去张方小学学了一年半。)

(21) [湘語長沙]

a. 后头 又 到 张方中学 读 咖 一年半。 (K 類助詞)

その後 また 行く 張方中学校 勉強する ASP 一年半

[その後、また張方中学校に行って一年半勉強した。] (之后又去张方小学学了一年半。)

b. 后头 又 到 张方中学 读 哒 一年半。 (T 類助詞)

その後 また 行く 張方中学校 勉強する ASP 一年半

[その後、また張方中学校に行って一年半勉強した。] (之后又去张方小学学了一年半。)

蔡橋方言では、T 類助詞が「主体変化動詞」や「主体動作・客体変化動詞」の後ろに付加して、「変化の達成」を表す。「主体動作・客体変化動詞」では、先行動詞による意味上の制限を受け、「付着」の意味を含む動詞には接続できるが、「消失、離脱」の意味を含む動詞の後ろには接続することができない。

(22) 你 好生 坐 哒 啰。 [湘語長沙]

あなた ちゃんと 座る ASP MOD

[ちゃんと座っていなさい。] (你好好儿坐着。)

(23) 该 号 乳鸽 吃 哒 就 补。 [湘語長沙]

この 種 鳩のひな 食べる ASP すると 滋養をつける

[このような鳩のひなは食べるとすぐ力をつけられる。] (这种乳鸽吃了就补。)

(24) 他 昨日子 吃 哒 酒。 [湘語長沙]

彼 昨日 飲む ASP お酒

[彼は昨日お酒を飲んだ。] (他昨天喝了酒。)

(25) 饭 熟 哒, 快 来 吃 吧。 [湘語長沙]

ご飯 炊ける ASP 早い 来る 食べる MOD

[ご飯は炊けた。早く食べに来なさい。] (饭熟了, 快来吃吧。)

(26) 有 哒 人, 么子 事 都 好 办。 [湘語長沙]

いる ASP 人 何 事 すべて 良い する

[人が居れば、何でもやりやすい] (有了人, 什么事都好办。)

表1 動詞の種類と T 類、K 類助詞の使用

	長沙方言など	蔡橋方言など
主体動作動詞	T 類助詞、K 類助詞	K 類助詞
主体動作・客体変化動詞	T 類助詞	T 類助詞
主体変化動詞	T 類助詞	T 類助詞

1.3 L 類助詞、K 類助詞、T 類助詞の関係

湘語の L 類助詞は [li]、[lɛ]、[le]、[la]、[lie]、[liɛ] などの音声的バリエーションがあり、“哩”、“咧”、“啦”、“来”などの漢字を用いて表記されている。L 類助詞は主に南部湘語（蔡橋、綏寧、洞口、湘鄉、邵陽、隆回、漣源、婁底、茶陵、攸県）に用いられる。

L 類助詞は文末位置において「新事態の発生に対する確認」という発話者の心的態度を表す。北京語の文末助詞“了”に相当し、たとえば、

- (27) 落 雪 哩。 [湘語蔡橋]
 降る 雪 MOD
 [雪が降った。] (下雪了。)
- (28) 下 雪 咧。 [湘語綏寧]
 降る 雪 MOD
 [雪が降った。] (下雪了。)
- (29) 落 雪 来。 [湘語洞口]
 降る 雪 MOD
 [雪が降った。] (下雪了。)
- (30) 落 雪 啦。 [湘語茶陵]
 降る 雪 MOD
 [雪が降った。] (下雪了。)

長沙方言など、北部湘語（衡山、衡陽、湘潭、益陽、岳陽、常德、石門、安郷、醴陵）においては、「新事態の発生に対する確認」のモダリティを表すものとして、T 類助詞が用いられる。

- (31) 下 雪 哒。 [湘語長沙]
 降る 雪 MOD
 [雪が降った。] (下雪了。)
- (32) 落 雪 哒。 [湘語衡山]
 降る 雪 MOD
 [雪が降った。] (下雪了。)
- (33) 落 雪 到。 [湘語常寧]
 降る 雪 MOD
 [雪が降った。] (下雪了。)

南部湘語においても、北部湘語においても、動詞の後ろに目的語を伴わない場合、K 類助詞と L 類/T 類助詞とが 1 つの複合助詞となり、文末に用いられる。

- (34) 己 来 刮 哩。 [湘語蔡橋]
 彼 来る ASP MOD

- [彼は来た。] (他来了。)
- (35) 己 早就 去 咕 哩。 [湘語隆回]
 彼 とつくに 行く ASP MOD
- [彼はとつくに行つた。] (他早去了。)
- (36) 小李 来 咖 来, 不要 去 寻。 [湘語婁底]
 李君 来る ASP MOD するな 行く 探す
- [李君が来た。探しに行かないで。] (小李来了, 不要去找。)
- (37) 作业 做 咖 哒。 [湘語益陽]
 宿題 する ASP MOD
- [宿題は終わった。] (作业写好了。)
- (38) 单车 烂 咖 哒。 [湘語湘潭]
 自転車 壊れる ASP MOD
- [自転車は壊れた。] (自行车坏了。)

長沙方言などの北部湘語では、「K 類助詞+T 類助詞」がアスペクトを表す複合助詞として、動詞の直後において「動作の完了」を表すことができる。

- (39) 后来 只 听得 讲 她 离 咖哒 婚。 [湘語長沙]
 その後 ただ 聞こえる 話す 彼女 離婚する ASP 離婚する
- [その後、彼女が離婚したのを耳にした。] (后来听说她离婚了。)
- (40) 他 做 咖哒 作业。 [湘語益陽]
 彼 する ASP 宿題
- [彼は宿題を完成させた。] (他做好了作业。)
- (41) 语文 作业 做 过哩 孟? [贛語攸県]
 国語 宿題 する ASP MOD(疑問)
- [国語の宿題は書き終わったか?] (语文作业做完了没有?)
- (42) 我 做 过哩 数学 作业 哩。 [贛語攸県]
 私 する ASP 数学 宿題 MOD
- [私は数学の宿題を書き終わった。] (我做了数学作业了。)

T 類助詞を文末助詞として持っている北部湘語は、それを「動作の完了」を表すアスペクト助詞として使うことができる。次のように、アスペクト助詞の T 類助詞と文末助詞の T 類助詞とが共起する場合もある。

- (43) 我 买 哒 书 哒。 [湘語長沙]
 私 買う ASP 本 MOD
- [私は本を買つた。] (我买了书了。)
- (44) 我 照 哒 相 哒。 [湘語長沙]
 私 撮る ASP 写真 MOD
- [私は写真を撮つた。] (我照了相了。)
- (45) 全部 忘记 哒 外面 的 世界 哒。 [湘語長沙]
 全部 忘れる ASP 外 PRAT 世界 MOD
- [外の世界をすっかり忘れた。] (全部忘记了外面的世界了。)
- (46) 写 哒 回信 哒。 [湘語衡陽]

書く ASP 返信 MOD

[返信を書いた。] (写了回信了。)

(47) 王秀玉 小学 毕 哒 业 哒? [湘語衡陽]

王秀玉 小学校 卒業する (毕业) ASP 卒業する (毕业) MOD

[王秀玉は小学校を卒業したか?] (王秀玉小学毕业了?)

一方、蔡橋方言など、殆どの南部湘語では、L類助詞が語気助詞として働くが、アスペクト助詞としては働かない。

(48) a. 吃 刮 饭 哩. [湘語蔡橋]

食べる ASP ご飯 MOD

[ご飯を食べた。] (吃了饭了。)

b. *吃哩饭哩。

(49) a. 我 照 刮 相 哩. [湘語蔡橋]

私 撮る ASP 写真 MOD

[私は写真を撮った。] (我照了相了。)

b. *我照哩相哩。

(50) a. 吃 咕 饭 哩. [湘語隆回]

食べる ASP ご飯 MOD

[ご飯を食べた。] (吃了饭了。)

b. *吃咕饭哩。

(51) a. 做 刮 作业 来. [湘語婁底]

する ASP 宿題 MOD

[宿題を書いた。] (做了作业了。)

b. *做哩作业哩。

南部湘語のなか、婁底、湘郷という2地点だけは北部湘語と同様に、L類助詞が文末助詞としても、アスペクト助詞としても働くことができる。たとえば、

(52) 四 伢唧 讨 来 个 堂客. [湘語婁底]

四 男の子 結婚する ASP 個 嫁

[四伢唧は結婚した。] (四伢子娶了个老婆。)

(53) 我 生日 吃 来 好 东西. [湘語婁底]

私 誕生日 食べる ASP 良い もの

[私は誕生日にいいものを食べた。] (我生日吃了好东西。)

(54) 我 打烂 哩 只 碗. [湘語湘郷]

私 割る ASP 個 茶碗

[私は1個の茶碗を割った。] (我打烂了一个碗。)

北部湘語のT類助詞、婁底、湘郷という2地点のL類助詞は北京語の助詞“了”と共通した特徴を持っている。“了”は「動作の完了」を表すアスペクト助詞としても、「新事態の発生に対する確認」を表す文末助詞としても使われる。

(55) 上午 写 了 一封 信, 可是 没 写 完. [北京語]

午前 書く ASP 一通 手紙 しかし NEG 書く 終わる

[午前には手紙を書いたが、書き終わらなかった。]

- (56) 我 写 了 作业 了。 [北京語]
 私 書く ASP 宿題 MOD
 [私は宿題を書いた。]
- (57) 他 去 了 中国 了。 [北京語]
 彼 行く ASP 中国 MOD
 [彼は中国に行きました。]

王力 (1958)、太田辰夫 (1958)、梅祖麟 (1981)、曹戸順 (1986) 等は通時的観点から、北方官話におけるアスペクト助詞“了”と文末助詞“了”との発展を考察し、図 2 のような経路を提示している (本稿筆者作成)。文末の“了”は段階 I でアスペクト助詞に先立って、「終了・完成」を意味する動詞から“虚化” (文法化) を成し遂げ、「S+V+0」という出来事の完了を表す助詞となった。次の段階 II では、文末の“了”が目的語の後ろからその前に移動して、アスペクト助詞へと変化した。最後に、文末の“了”はアスペクト的意味を失い、「新事態の発生に対する確認」のモダリティを表す語気助詞となった、という変化の過程である。

I) S+V+0+了 > II) S+V+了+0 > III) S+V+了+0+了
 S+V+0+了

図 2 北京語の助詞“了”の発展経路 A

この発展経路の中、I > II は最も重要な変化である。この変化が上述したように、文末助詞“了”が目的語の前に移動した結果だというのは従来の説 (‘移前説’ (前に移動する説)) である。この説について、吳福祥 (1998) は I > II の過程をより詳細に考察し、「文末助詞“了”がアスペクト助詞に文法化した」ことを判断できる基準を立てた (図 3 参照)。その基準は II-i のように、“了”が「動作の完了」を表す補語“却”の後ろ、目的語の前に用いられることである。

I) S+V+0+了 > II-i) S+V+ “却” 等+0
 II-ii) S+V+ “却” 等+了+0 > II) S+V+了+0 > III) S+V+了+0+了
 II-iii) S+V+了 S+V+0+了
 S+V+0+了

図 3 北京語の助詞“了”の発展経路 B

以上のような“了”の発展過程は湘語の文末助詞とアスペクト助詞の関係を考察する際、非常に示唆的である。湘語における L 類、T 類、L 類助詞を用いた文型は図 4 のような 5 つのパターンにまとめられる。これらの文型を“了”の発展経路に比較させると、文末助詞の L 類助詞と T 類助詞が K 類助詞の意味領域に進出している傾向が南部湘語にも、北部湘語にもあるとわかった。このうち、パターン D は上の II-ii の段階に相当し、L 類/T 類助詞が K 類助詞と目的語の間に挟まれており、次の E のパターンで L 類/T 類助詞が K 類助詞に取って代わる段階とつながっている。南部湘語においても、北部湘語においても、K 類助詞と T 類/L 類助詞の意味変化が A > B > C > D > E のような発展経路の中にあるとわかる。

	文末=L 類助詞 (南部湘語)	文末=T 類助詞 (北部湘語)	発展経路
A:	V+K 類+0+L 類	/ V+K 類+0+T 類	} 段階 I
B:	V+K 類+L 類	/ V+K 類+T 類	
C:	V+0+L 類	/ V+0+T 類	

D: V+K類+L類+O+L類 / V+K類+T類+O+T類 段階Ⅱ

E: V+L類+O+L類 / V+T類+O+T類 段階Ⅲ

図4 L類、T類、L類助詞を用いた文型と北方官話“了”の発展経路との関係

湘語のK類、T類、L類助詞を用いた文型をまとめると、次表のようになる。

表2 各湘語におけるK類、T類、L類助詞の文型

地点 \ 文型	A	B	C	D	E
蔡橋、隆回など	○	○	○	×	×
攸県など	○	○	○	○	×
長沙、衡陽、婁底、湘郷など	○	○	○	○	○

(注)「○」は当該文型が用いられること、「×」はそれが無いことを表す。

2. 湘語の「持続」表現について

「持続」の aspekts 的意味には「動作の持続」、「結果状態の持続」という2つの下位的意味がある。殆どの湘語はT類助詞を用いて「動作の持続」を表し、助詞“起”を用いて「結果状態の持続」を表す。本節では、湘語諸方言の相違点や共通点を比較し、湘語における持続表現の体系を考察する。

2.1 「動作の持続」を表すアスペクト助詞

湘語では「動作の持続」を表す助詞として、T類助詞が最もよく用いられる。T類助詞は [ta]、[tau]、[tau]、[tao] などの音声的バリエーションがあり、“哒”、“啁”、“到”、“倒”などの漢字で表記される。T類助詞は湘語の広い範囲にわたって分布している。

南部湘語では、「動作持続」の意味を表すT類助詞は一般に前置詞“在”を用いた場所詞句（“在”+場所名詞）を伴う必要がある。

(58) 己 摊人 吃 倒 酒 在 米里。 [湘語蔡橋]

彼ら 飲む ASP お酒 PREP あそこ

[彼らはあそこでお酒を飲んでいる。] (他们在那儿喝着酒。)

(59) 己 嬉 倒 在 果里。 [湘語蔡橋]

彼 遊ぶ ASP PREP ここ

[彼はここで遊んでいる。] (他在这儿玩儿。)

(60) 我 蒔 倒 田 在 眯里。 [湘語隆回]

私 植える ASP 田 PREP そこ

[私はそこで田を植えている。] (我在那儿种田呢。)

南部湘語の一つ、辰溪方言では場所名詞が脱落し、前置詞“在”のみがT類助詞“哒”と共に「動作持続」を表す。

(61) 她 唱 哒 歌 在 就 措 喊 去 了。 [湘語辰溪]

彼女 歌う ASP 歌 MOD すると PREP 呼ぶ 行く MOD

[彼女は歌を歌っていたが、突然だれかに呼ばれて姿を消した。] (他唱着歌突然被叫走了。)

(62) 我 向 哒 他 在。 [湘語辰溪]

私 見る ASP 彼 MOD

[私は彼を見ている。] (我正看着他。)

長沙方言などの北部湘語では、T類助詞は前述した「動作の完了」と「結果状態の持続」を表すことが多いが、「V₁+ASP+V₁+ASP, V₂」という特定の文型に限って「動作の持続」を表す。この文型は北部湘語にも、南部湘語にも使われており、「V₁の持続中に、V₂が突然に起きた」意味を表す。T類助詞がこの文型における前項動作の持続を表す。

(63) 治 哒 治 哒 就 好 哒。 [湘語長沙]
治療する ASP 治療する ASP すると 治る MOD

[治療し続けると、いつの間にか治った。] (治着治着好了。)

(64) 讲 哒 讲 哒 就 到 咖 哩。 [湘語湘郷]
話す ASP 話す ASP すると 着く ASP MOD

[話しているうちに、着いた。] (说着说着就到了。)

(65) 已 讲 倒 讲 倒, 笑 出来。 [湘語蔡橋]
彼 話す ASP 話す ASP 笑う ~だす

[彼は話しているうちに、笑い出した。] (他说着说着笑出声来。)

(66) 他 讲 倒 讲 倒, 就 发脾气 哩。 [湘語邵陽]
彼 話す ASP 話す ASP すると 怒る MOD

[彼は話しているうちに、急に怒り出した。] (他说着说着生气了。)

(67) 争 哒 争 哒, 来 哒 一 个 走 路 咯。 [湘語益陽]
口論する ASP 口論する ASP 来る ASP 1 個 歩く 道 PREP

[言い争っているところ、1人の歩行者が来た。]

(68) 讲 哒 讲 哒 睡觉 到。 [湘語常寧]
話す ASP 話す ASP 寝る MOD

[話している途中、つい寝てしまった。] (说着说着睡着了。)

湘語のT類助詞は上述したように、「動作の完了」、「動作持続」、「結果状態の持続」などいろいろな意味を表す。以下はこれらの複数の意味がいかなる経路を辿ってきたのかについて考察する。

湘語のT類助詞は北京語の“着”と同様に、古代漢語における「付着する」を表す“著”（“箸”、“着”）を語源とする。『広韻』では“著，附也”となっている。梅祖麟（1982）、徐丹（1992）などによると、本動詞の“著”はさらにほかの動詞の後ろについて、場所名詞を導く前置詞へ変化したという。以下の用例は古代文献（例(69)、(70)は六朝、例(71)、(72)は唐代）における場所名詞を導き出す“著”（着）であり、いずれも徐丹（1992）より引用したものである（日本語訳は丸尾ほか（2001）による）。

(69) 先 担 小兒, 度 著 彼岸。 [賢明經]
まず 担ぐ 小さな息子 渡る に 彼岸

[まず小さな息子を担いで、向こう岸に渡りついた。]

(70) 負 米 一斗, 送 著 寺 中。 [六度集經]
負う 米 一斗 送る に 寺 中

[米一斗を負い、寺まで送り届けた。]

(71) 单于 殊 常 之 义, 坐 着 我 众 蕃 之 上。 [李陵]
单于 異なる 通常 の 道理 座る に 私 多い 蕃人 の 上座

[单于（ぜんう）は通常の道理とは異なり、私を多くの蕃人の上座に座らせた。]

(72) 惟 只 阿娘 床 脚 下 作 孔, 盛 著 中央。 [搜神記]
これ ただ~だけ 母親 寝台 足 下 作る 孔 入れる に 中央

[仕方なく母親の寝台の足元に穴をほり、中に入れた。]

“著”は空間表現から時間表現へと発展して、最終的に「持続性」を表すアスペクト助詞と変わり、その場所詞を導く機能が“在”に受け継がれた。現代北京語の“着”は徐丹(1992)によると、このような変化の経路を辿っているという(丸尾ほか訳(2001))。

中国語の北方語における「V在」と「V着」は「V著」の2つの変異体であり、「V著」が場所を表す語を導く用法は六朝時には既に出現していた。「在/著」がある時期混用され競合した後、「V在」は北方語において「V著」に取って代わった。同時にまた「附着」の意味特徴をも継承した。「著」は空間を表す語が時間を表す語へと変わったものであり、持続概念を表す。

現代北京語において、“在”は場所名詞を導く前置詞として働き、“着”は場所名詞の直前に置くことができない。両者は明確な分業がなされており、文法機能が相補関係を成している。

- (73) a. 他 站 在 那儿。 [北京語]
 彼 立つ PREP そこ
 [彼はそこに立っている。]

b. *他站着那儿。

- (74) a. 那儿 站 着 一 个 人。 [北京語]
 そこ 立つ ASP 1 個 人
 [そこに1人の人が立っている。]

b. *那儿站在一个人。

長沙方言、衡陽方言などの北部湘語においては、“著”の「場所前置詞」の機能がT類助詞“啵”に受け継がれた。たとえば、

- (75) 屋里 住 啵 县城 里面。 [湘語長沙]
 家族 住む PREP 县城(県の役所のある町) 中
 [家族は県城に住んでいる。](家住县城里。)

- (76) 再 把 鞋子 挂 啵 上面。 [湘語長沙]
 さらに PREP 靴 掛ける PREP 上
 [さらに靴をその上に掛ける。](再把鞋挂在上面。)

- (77) 放 啵 箱子 里 不 拿 出来。 [湘語長沙]
 置く PREP 箱 中 NEG 持つ 出てくる
 [箱に入れて取り出さない。](放在箱子里不拿出来。)

- (78) 坐 啵 那 树丫子 上面 来 吃。 [湘語長沙]
 座る PREP その 木のまた 上 来る 食べる
 [木のまたに座って食べる。](坐在树杈上吃。)

- (79) 咯前几 落 雨, 不 坐 啵 屋 里头 啊? [湘語衡陽]
 いま 降る 雨 NEG 座る PREP 部屋 中 MOD
 [今雨が降っている。部屋の中に入って座らないか?](现在下雨, 不进房子里面坐吗?)

- (80) 哄 啵 那里 看。 [湘語衡陽]
 集まる PREP そこ 見る
 [そこに集まって見る。](在那儿哄着看。)

一方、蔡橋方言などの南部湘語では、T類助詞“倒”は場所前置詞として働くことができない。場所詞を導く前置詞としてはT類助詞“倒”([təu²¹])と同じ子音・母音を持ちながら、声調だけが異なった“到”([təu⁵])が用いられる。下に挙げる例文では、“住”(住む)、“困”(横になる)、“絆”(転がる)などのような主体の位置・姿勢を表す「主

体変化動詞が「到 + 場所名詞」の場所詞句を後ろに伴って、動作主体が自らの動作によって特定の場所に到達したという意味が表される。

(81) a. 我 蛮 多 亲戚 住 到 邵阳。 [湘語蔡橋]

私 とても 多い 親戚 住む PREP 邵陽

[私のたくさんの親戚は邵陽に住んでいる。] (我很多亲戚住在邵阳。)

b. *我蛮多亲戚住倒邵阳。

(82) a. 己 还 坐 到 沙发 高冲。 [湘語蔡橋]

彼 まだ 座る PREP ソファ うえ

[彼はまだソファに座っている。] (他还坐在沙发上。)

b. *己还坐倒沙发高冲。

(83) a. 己 长日短日 困 到 嗯里。 [湘語蔡橋]

彼 一日中 横になる PREP そこ

[彼は一日中そこで横になっている。] (他一天躺在那儿。)

b. *己长日短日困倒嗯里。

(84) a. 你 看, 一 个人 绊 到 米里。 [湘語蔡橋]

あなた 見る 1 個人 転がる PREP そこ

[ほら見て、1人の人がそこに転がっている。] (你看, 有个人摔倒在那儿。)

b. *你看, 一个人绊倒米里。

一方、「倒」は先述したように、「付着、獲得、留存」の意味を含む「主体動作・客体変化動詞」に接続して、「完了」の意味を表すと同時に、「目的語がある場所に留まるようになった」という付随の意味をも表す。「倒」が表す中心的な意味は「動作の完了」であるため、「倒」の後ろに空間概念を表す場所詞句が後続できない。

(85) a. 衣衫 罩 倒 脑壳。 [湘語蔡橋]

服 覆う ASP 頭

[服で頭を覆った。] (衣服罩住了脑袋。)

b. *衣衫 罩 倒 脑壳 高冲。

服 覆う ASP 頭 上

c. 衣衫 罩 到 脑壳 高冲。 [湘語蔡橋]

服 覆う PREP 頭 上

[服が頭の上を覆っている。] (衣服罩在头上。)

蔡橋方言の「到」は「著」の「場所前置詞」の機能を受け継ぎ、主体の到着場所を導く前置詞である。一方、T 類助詞「倒」は中心的意味として、空間的概念ではなく、「動作の完了」という時間的概念を表す。蔡橋方言の場所前置詞「到」と T 類助詞「倒」は場所名詞が後ろに来るか否かで構文上、相補関係を成している。両者は古代漢語「著」の変異体とみなすことができる。文法機能の変化に伴い、「到」は声調の変化を起こして「倒」となったのではないかと考える。

これに対し、長沙方言における「哒」は1つの形式で2つの文法機能を果たしている(表3参照)。

表3 “到”、“倒”、“哒”と後続成分の共起関係

動詞後成分		後続成分	
		場所名詞	非場所名詞
蔡橋方言	到	○	×
	倒	×	○
長沙方言	哒	○	○

場所前置詞“到”からアスペクト助詞“倒”への変化は次のように示される。“到”は後続成分の範囲が空間性を持つものから空間性を持たないものに拡大したことによって、“倒”に変化したと考えられる。

i V+到+NP([+空間])

ii V+倒+NP([-空間])

そして、“住”(住む)、“困”(横たわる)などのような「動作主体が特定の場所に留まる変化」を表す「主体変化動詞」はiiiのような文型に用いられることがある。「在+場所名詞」という場所詞句が動作主体の存在場所を明示する成分である。例(86)～例(90)は蔡橋方言の用例である。

ii V+倒+NP([-空間])

iii V+倒+在+NP
[+空間]

- (86) a. 我 蛮 多 亲戚 住 倒 在 邵阳。 [湘語蔡橋]
私 とても 多い 親戚 住む ASP PREP 邵陽
[私のたくさんの親戚は邵陽に住んでいる。] (我很多亲戚住在邵阳。)

b. *我蛮多亲戚住倒邵阳。

- (87) a. 己 长日短日 困 倒 在 嗯里。 [湘語蔡橋]
彼 一日中 横になる ASP PREP そこ
[彼は一日中そこで横になっている。] (他一天在那儿躺着。)

b. *己长日短日困倒嗯里。

- (88) a. 你 看, 一 个人 绊 倒 在 米里。 [湘語蔡橋]
あなた 見る 1 個人 転がる ASP PREP あそこ
[ほら見て、1人の人がそこに転がっている。] (你看, 有个人摔倒在那儿。)

b. *你看, 一个人绊倒米里。

“挂”(掛ける)、“整”(調理する)、“放”(置く)などの「主体動作・客体変化動詞」は文型iiiに用いることもできる。この場合、「場所詞句」は動作客体が留まっている存在場所を表し、“倒”と共起することによって、「先行動作の実現」と「後続状態の持続」の2つの段階を複合的に捉える「パーフェクト性」を表す。

- (89) a. 书包 挂 倒 在 墙 上。 [湘語蔡橋]
カバン 掛ける ASP PREP 壁 上
[カバンは壁に掛けてある。] (书包刮在墙上。)

b. *书包挂倒墙上。

- (90) a. 菜 整 倒 在 锅 里。 [湘語蔡橋]
料理 調理する ASP PREP 鍋 中
[料理はいま鍋の中で作っている最中だ。] (菜正在锅里做着呢。)

b. *菜整倒锅里。

さらに、「主体動作動詞」はivの文型に用いる。「主体動作動詞」は「変化動詞」(主体変化動詞、主体動作・客体変化動詞)と異なり、「結果状態の留まっている空間」に関心を持たないため、共起する場所詞句「在+NP」における「空間性」が薄れてき、「動作持続」を表すための構文形式となっている。

- iii V (変化動詞) + 倒 + 在 + NP
[+空間]
- iv V (主体動作動詞) + 倒 + 在 + NP
[-空間]
- (91) 他们 正 讲 倒 话 在 米里。 [湘語蔡橋]
 彼ら ちょうど 話す ASP 話 PREP あそこ
 [彼らは (あそこで) 話をしている。] (他们在说着话呢。)
- (92) 我 听 倒 在 咯落。 [湘語新化]
 私 聞く ASP PREP ここ
 [私は (ここで) 聞いているよ。] (我在 (这儿) 听着呢。)

湘語のT類助詞が“著”から辿ってきた発展経路をまとめると、次のようになる。

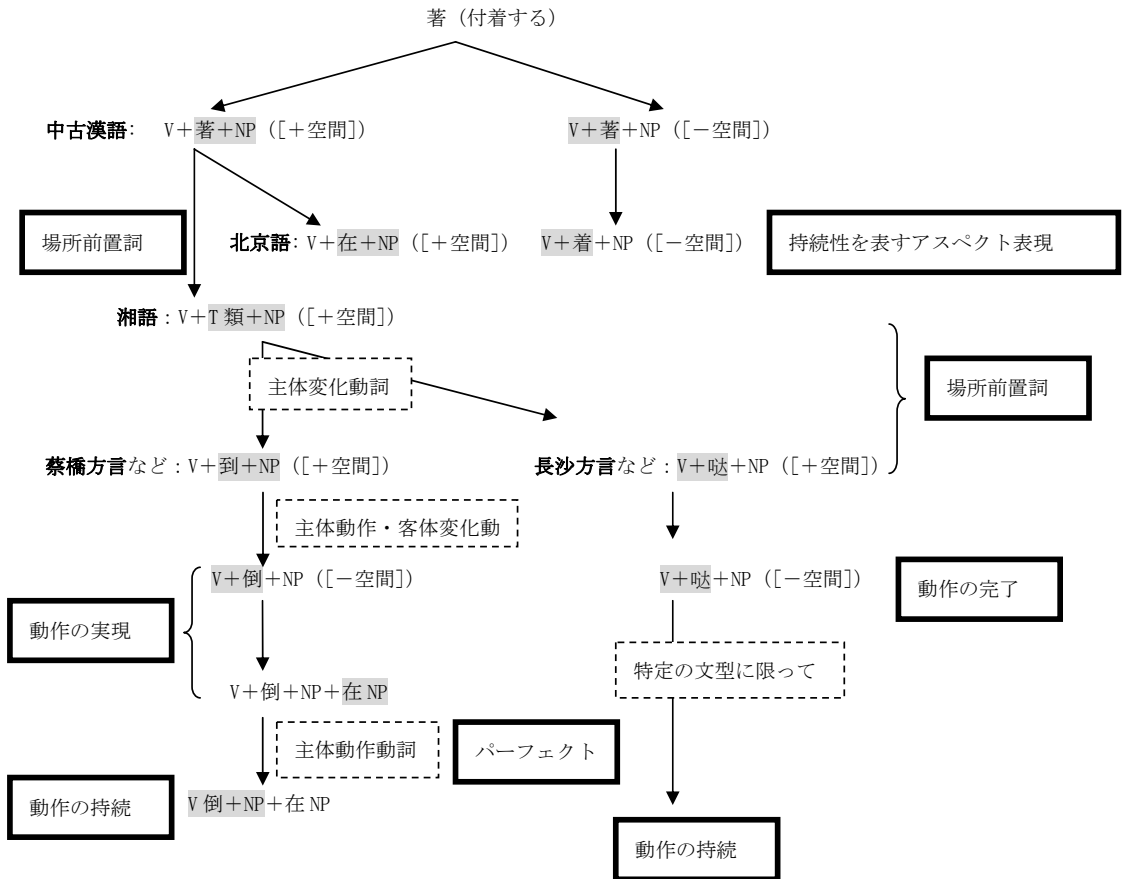


図5 “著”から湘語のT類助詞への変化

2.2 「結果状態の持続」を表すアスペクト助詞

湘語では「結果状態の持続」を表すアスペクト助詞として、「起」が最も多く用いられる。

“起”と結びつく動詞は動作の完了とともに、結果状態の持続が実現される「主体動作・客体变化動詞」もしくは「主

体変化動詞」である。「起」は多くの場合、次のような場所名詞が文頭に立つ「存在文」に用いられる。

- (93) 桌面 上 放 起 一 碗 水。 [湘語臨武]
 テーブル 上 置く ASP 1 杯 水
 [テーブルに一杯の水が置いてある。] (桌上放着一碗水。)
- (94) 墙 高头 挂 起 一 幅 画。 [湘語湘郷]
 壁 上 掛ける ASP 1 枚 絵
 [壁に一枚の絵が掛けてある。] (墙上挂着一幅画。)
- (95) 堂屋 里 坐 起 好 多 客。 [湘語長沙]
 中央の部屋 中 座る ASP とても 多い 客
 [中央の部屋にたくさんのお客が座っている。] (堂屋里坐着很多客人。)
- (96) 塘 里 浮 起 好 多 鱼。 [湘語湘潭]
 池 中 浮く ASP とても 多い 魚
 [池にたくさんの魚が浮いている。]
- (97) 身 上 肿 起 个 大 泡泡。 [湘語隆回]
 体 上 腫れる ASP 個 大きい 腫れ物
 [体に大きな腫れ物ができている。]
- (98) 她 穿 起 一 身 新 衣。 [湘語長沙]
 彼女 着る ASP 1 着 私 服
 [彼女は新しい服を着ている。] (她穿着一套新衣。)
- (99) 腰 上 捆 起 一 根 麻 绳子。 [湘語益陽]
 腰 上 締める ASP 1 本 麻 ひも
 [腰に1本の麻のひもが締められている。] (腰上捆着一根麻绳。)
- “坐”(座る)、“困”(横たわる)、“倚”(立つ)などのような「主体変化動詞(主体動作・主体変化動詞)」では、“起”のみならず、T類助詞も用いられる。
- (100) 门口 站 哒 一 堆 人。 [湘語長沙]
 入り口 立つ ASP 1 群れ 人
 [入り口に一群の人が立っている。] (门口站着一群人。)
- (101) 己 在 屋 里 晒 哒。 [湘語益陽]
 彼 PREP 家 中 寝る ASP
 [彼は家で寝ている。] (他在家睡着呢。)
- (102) 那挡 围 哒 一 堆 人。 [湘語衡山]
 あそこ 囲む ASP 一群れ 人
 [あそこに一群の人が輪を作っている。] (那儿围着一群人。)
- (103) 门口 倚 到 一 群 人。 [湘語臨武]
 入り口 立つ ASP 一群 人
 [入り口に一群の人が立っている。] (门口站着一群人。)
- (104) 他 在 门口 站 到。 [湘語臨武]
 彼 PREP 入り口 立つ ASP
 [彼は入り口に立っている。] (他在门口站着。)
- (105) 明仔子 骑 哒 单 车 去 买 票。 [湘語湘潭]
 明君 乗る ASP 自転車 行く 買う チケット

[明君は自転車に乗ってチケットを買いに行く。] (明仔子骑着自行车去买票。)

“鼓” (大きくする)、“歪” (斜めにする) などのような再帰動詞では、蔡橋方言などの南部湘語が“起”を用いて「状態の持続性」を表す (例(106)、例(107)参照) 一方、長沙方言などの北部湘語では“起”のみならず、T 類助詞“哒”も「状態の持続性」を表すことができる (例(108)、例(109)参照)。

(106) a. 己 担 脑壳 歪 起。
 彼 PREP 頭 斜めにする ASP
 [鳩がいつも頭を斜めにしている。] (它老是把头歪着。)

b. *己担脑壳歪倒。

(107) a. 己 眼睛 鼓 起, 吓 死 人。
 彼 目 大きくする ASP 驚かす 死ぬ 人
 [彼は目を大きくして、人をたいへん驚かした。] (他的眼睛瞪得老大, 吓死人。)

b. *己眼睛鼓倒吓死人。

(108) a. 它 总是 把 头 一 歪 起。
 それ (鳩) いつも PREP 頭 ずっと 斜めにする ASP
 [鳩がいつも頭を斜めにしている。] (它老是把头歪着。)

b. 它总是把头一歪倒。

(109) a. 他 眼睛 一 鼓 起, 吓 死 人 的。
 彼 目 すぐに 大きくする ASP 驚かす 死ぬ 人 PART
 [彼は目を大きくして、人をたいへん驚かした。] (他的眼睛瞪得老大, 吓死人。)

b. 他眼睛一鼓哒, 吓死人的。

長沙、益陽など多くの北部湘語では、「主体変化動詞」のみならず、「主体動作・客体変化動詞」や「主体動作動詞」においても、T 類助詞を用いることができる。これらの方言では“哒”による“起”の意味領域への進出が起きていると考えられる。

(110) 桌 上 放 哒 一 碗 水。
 テーブル 上 置く ASP 1 杯 水
 [テーブルに1杯の水が置いてある。] (桌上放着一碗水。)

(111) 门口 停 哒 一 部 车。
 入り口 止まる ASP 1 台 車
 [入り口に1台の車が止まっている。] (门口停着一辆车。)

(112) 屋 门口 栽 哒 几 只 树。
 家 入り口 植える ASP 幾つ 個 木
 [家の入り口に何本かの木が植えてある。] (屋门口栽了几棵树。)

(113) 匾 高头 写 哒 两 只 字。
 扁額 上 書く ASP 2 個 字
 [扁額に字が2つ書いてある。] (匾上写了两个字。)

(114) 车子 上 装 哒 好 多 萝卜。
 車 上 入れる ASP とても 多い 大根
 [車にたくさんの大根が入れてある。] (车上装着很多萝卜。)

動作の局面と結果状態の維持の局面の両側面を持つ「主体動作・客体変化動詞」、たとえば、“开” (開く)、“关” (閉める)、“栽” (植える) では、“起”を用いて「結果状態の持続」を表す。このような場合、場所詞句との共起が必要ではない。以下は蔡橋方言の用例である。

(115) 門 和 窗 戶 全 部 開 起, 噫 怕 賊 進 來。 [湘語蔡橋]
 ドア と 窓 全部 開く ASP NEG 恐れる 泥棒 入る 来る

[ドアと窓が全部開いている。泥棒が入るのを心配しないのか。] (門和窗户都开着, 也不担心贼进来。)

(116) 己 開 起 窗 子 困 眼 閉。 [湘語蔡橋]
 彼 開く ASP 窓 寝る

[彼は窓を開いて寝ている。] (他开着窗户睡觉。)

罗自群 (2006) によると、“起”は持続性を表すアスペクト助詞として、主に湖北、四川、重慶、貴州、雲南、湖南などの西南官話と湘語地域に分布している。一方、[t] を子音とした T 類助詞は官話方言、晋語、湘語、贛語、吳語、徽語、粵語、客家語など、全国に広範に分布している。“起”を持つ方言では必ず T 類助詞も用いられているが、T 類助詞を持つ多くの方言では“起”が用いられないという。

蔡橋方言などの南部湘語の T 類助詞“倒”は“坐”(座る)、“困”(横になる)などのような「主体変化動詞」に付加して「結果状態の持続」を表すが、“放”(置く)などのような「主体動作・客体変化動詞」と結合することはできない。一方、長沙方言などの北部湘語の T 類助詞“哒”は「主体動作・客体変化動詞」にも接続できるし、「主体変化動詞」にも接続することができる。“哒”の文法化の度合いが一步進んで「結果状態の持続」の意味領域までに進出している。

表4 「結果状態の持続」を表すアスペクト助詞

動詞 方言	主体動作・客体変化動詞	主体変化動詞	主体動作動詞
長沙方言	起/T 類助詞	起/T 類助詞	×
蔡橋方言	起	起/T 類助詞	×

(注)「×」は当該動詞類が「結果状態の持続」を表さないことを示す。

3. アスペクトとモダリティ

“在”はもともと「人・物の存在」を表す本動詞である。多くの漢語方言は“在”を用いて「動作の持続性」もしくは「結果状態の持続性」を表す。湘語蔡橋方言では、“在”が主に次のような3つの文型に用いられている。

① “在”+場所名詞+V+ASP (+NP)

(117) 己 在 噯 里 吃 倒 酒。 [湘語蔡橋]
 彼 PREP そこ 飲む ASP お酒

[彼はそこでお酒を飲んでいる。] (他在那儿喝着酒。)

② “在”+V+ (ASP+NP)

(118) 己 在 吃 倒 酒。 [湘語蔡橋]
 彼 PREP 飲む ASP お酒

[彼はそこでお酒を飲んでいる。] (他在喝着酒。)

③ V+ASP (+NP) + “在”+場所名詞

(119) 己 吃 倒 酒 在 噯 里。 [湘語蔡橋]
 彼 飲む ASP お酒 PREP そこ

[彼はそこでお酒を飲んでいる。] (他在那儿喝着酒。)

この中、①と②は北京語にも使われているが、③は北京語には用いられない。北京語では、アスペクト助詞が用いられた場合、場所詞句「“在”+場所名詞」は必ず動詞句の前に置かなければならない。たとえば、

(120) a. 字典 在 桌子 上 摆 着。 [北京語]
 辞書 PREP テーブル うえ 置く ASP

[辞書はテーブルに置いてある。]

- b. *字典 摆 着 在 桌子上。
 辞書 置く ASP PREP テーブル うえ
 [辞書はテーブルに置いてある。]
- (121) a. 他 在 床 上 睡 着。 [北京語]
 彼 PREP ベッド うえ 寝る ASP
 [彼はベッドで寝ている。]
- b. *他 睡 着 在 床 上。
 彼 寝る ASP PREP ベッド うえ
 [彼はベッドで寝ている。]
- 湘語、贛語、呉語など多くの東南方言は場所詞句をアスペクト助詞の後ろに用いて、「結果状態の持続性」を表す。以下の用例は罗昕如 (2007) より引用したものである。
- (122) 一件 衣 挂 倒 在 壁头 高落。 [湘語新化]
 1 着 服 掛ける ASP PREP 壁 上
 [1 着の服が壁に掛けてある。] (一件衣服挂在墙上。)
- (123) 我 坐 哒 在 教室 里。 [湘語常寧]
 私 座る ASP PREP 教室 中
 [私は教室に座っている。] (我坐在教室里。)
- (124) 杂志 放 哒 在 桌子 上。 [湘語常寧]
 雑誌 置く ASP PREP テーブル 上
 [雑誌はテーブルに置いてある。] (杂志放在桌子上。)
- (125) 水 烧 者 在 火 高里。 [湘語漣源]
 水 焼く ASP PREP 火 上
 [水が沸かされている。] (火上烧着水。)
- (126) 好 多 人 围 者 在 马路 边上。 [湘語漣源]
 とても 多い 人 囲む ASP PREP 道路 脇
 [多くの人が道路脇を囲んでいる。] (很多人围在马路边上。)
- (127) 鱼 养 起 在 缸子 里。 [湘語隆回]
 魚 飼う ASP PREP 水槽 中
 [魚は水槽に飼っている。] (鱼在鱼缸里养着。)
- (128) 我 养 起 鱼 在 缸子 里。 [湘語隆回]
 私 飼う ASP 魚 PREP 水槽 中
 [私は魚を水槽に飼っている。] (我在水缸里养着鱼。)
- (129) 摆 哒 在 那里。 [湘語衡陽]
 置く ASP PREP そこ
 [そこに置いてある。] (摆在那儿。)
- (130) 坐 哒 在 屋 里头。 [湘語衡陽]
 座る ASP PREP 部屋 中
 [部屋の中に座っている。] (坐在房子里。)
- (131) 放 着 在 桌子 上。 [贛語豊城]
 置く ASP PREP テーブル 上
 [テーブルの上に置いてある。]

- (132) 写 着 在 簿基 上。 [韻語豊城]
 書く ASP PREP ノート 上
 [ノートに書いてある。] (写在本子上。)
- (133) 茶杯 摆 起 勤 台子 浪。 [呉語海塩]
 コップ 置く ASP PREP テーブル 上
 [コップはテーブルに置いてある。] (茶杯摆在桌子上。)
- (134) 钟 挂 起 勤 墙头 浪。 [呉語海塩]
 時計 掛ける ASP PREP 壁 上
 [時計は壁に掛けてある。] (钟挂在墙上。)

以上のような文型では、先行動作が完了したことと、動作客体（若しくは動作主体自ら）が動作の働きかけを受けて特定の場所に留まっているという「パーフェクト性」（「先行動作の完成性+後続状態の持続性」）が読み取れる。

「パーフェクト」は工藤 (1995) により、「動作パーフェクト (actional perfect)」と「状態パーフェクト (stative perfect)」に分けられる。「先行の時間的段階と後続の時間的段階を複合的にとらえる」点では、「動作パーフェクト」と「結果継続=状態パーフェクト」が意味的に連続している。他方、「運動を「完成的」ではなく、「継続的」ととらえる」点では、「結果継続=状態パーフェクト」と「動作継続」も意味的に連続している。

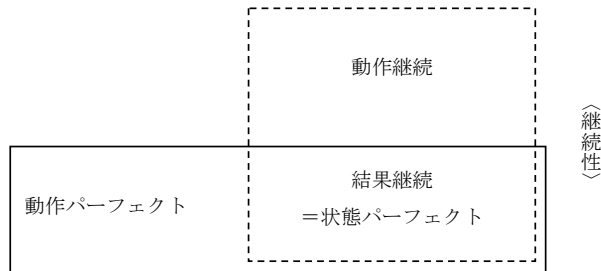


図 6 パーフェクトと継続性の関係 (出自: 工藤 1995:117)

湘語蔡橋方言のアスペクト助詞“倒”は「動作パーフェクト」を表すと同時に、「動作の完了」を表す「動作の完成」と「結果状態の持続」は時間の流れに沿った同一動作の異なる段階に理解されることが出来る。「結果状態の持続」というアスペクトの意味は必ず、先行して達成した運動を前提条件とする。蔡橋方言などの湘語では、場所詞句が動詞句の後ろに置かれることによって、先行する動作、行為の達成が背景化され、場所詞句に表れる結果状態「持続性」が前面に出てくる。蔡橋方言の「動作の完了」を表す“倒”は先行動詞が必ず「モノの獲得」を含意するものでなければならないが、「パーフェクト性」を表す“倒”はそれを含意しない動詞にも接続できるようになり、語彙的意味の制限から解放される。これに伴い、後続する場所詞句の「空間性」も剥脱される。そうした流れのなかで、指示代名詞が場所名詞の代わりに、頻繁に使用されることはこの意味変化に大いに拍車をかけた。

- (135) 己 晒 倒 辣子 在 噶里。 [湘語蔡橋]
 彼 日干しする ASP 唐辛子 PREP そこ
 [彼はそこに唐辛子を干している。] (他在那儿晒着辣椒。)

湘語祁陽方言では、場所詞句を動詞句の前に用いた文は「動作持続」、動詞句の後ろに用いた文は「結果継続の持続」を表す。たとえば、次の2つの用例では、場所詞句“在果里”（ここで），“在那里”（そこで）が動詞句の前に置かれており、「動作持続」のアスペクトの意味が表されている。

- (136) 我 在 果里 做事, 莫 吵! [湘語祁陽]
 私 PREP ここ する 仕事 NEG 邪魔する

[私はここで仕事をしているから、邪魔しないで。] (我正在这儿做事，不要吵。)

(137) 细个子 在 那里 踢田。 [湘語祁陽]

こども PREP そこ ゲーム名

[子供がそこで“踢田”のゲームを遊んでいる。] (小孩子正在玩踢田的游戏。)

東南諸方言におけるアスペクト助詞と場所詞句(「在」+場所名詞)とが共起してアスペクトの意味を表すことは、アスペクトの意味の連続性を反映している。

次に2つの用例では、場所詞句が動詞句の後ろに用いられている。(138)はドアの存在場所に関心を持たず、「ドアが開いている」状態に焦点を当てている。(139)では、“人”の存在場所“操场”(運動場)が文頭にあるにも関わらず、場所詞句“在那里”(そこに)が用いられる。これらの場所詞句における「空間性」はかなり薄れていると考えられる。

(138) 门 打开 在 果里。 [湘語祁陽]

ドア 開ける PREP ここ

[ドアが開けてある] (门正开着。)

(139) 操坪 里 围 起 一堆 人 在 那里。 [湘語祁陽]

運動場 中 囲む ASP 1群れ 人 PREP そこ

[運動場には一群の人が輪を作っている。] (一群人正围聚在操坪里。)

湘語漣源では、動詞句の後ろにアスペクト助詞を付加せず、場所詞句をその後ろに接続して「結果状態の持続」を表す。

(140) 张 门 开 害 嗯哩, 内底 毛得 人。 [湘語漣源六亩田]

枚 ドア 開く PREP そこ 中 ない 人

[ドアが開いている。中には人がいない。] (门开着, 里面没有人。)

(141) 恩只 衣裳 渠 穿 害 嗯哩 呢。 [湘語漣源六亩田]

その 服 彼 着る PREP そこ MOD

[その服は彼が着ている。] (那件衣服他穿着呢。)

動作客体に変化を引き起こすことがない「主体動作動詞」では、場所詞句の<空間性>が剥脱され、「動作持続」を表すアスペクト表現へと発展する。

(142) 他们 正 讲 倒 话 在 米里。 [湘語蔡橋]

彼ら ちょうど 話す ASP 話 PREP あそこ

[彼らは(あそこで)話をしている。] (他们在说着话呢。)

(143) 我 听 倒 在 咯落。 [湘語新化]

私 聞く ASP PREP ここ

[私は(ここで)聞いているよ。] (我在(这儿)听着呢。)

意味的抽象化には音声的縮小化が基本的に連動する(工藤 2001)。湘語漣源においては、場所詞句の具体的な指示機能が失われることに伴い、場所詞句に音声の短縮化が起きている。

(144) 门口 害 哩 落 雨。 [湘語漣源六亩田]

そと PREP そこ 降る 雨

[外は雨が降っている。] (外面正在下雨。)

西南官話の四川成都方言や武漢方言では、次のように前置詞“在”だけが文末に残されている。

(145) 包子 蒸 起 在。 [西南官話四川]

肉まん 蒸す ASP MOD

[肉まんは蒸しているところだ。] (包子蒸着呢。)

(146) 他 还 要 起 在。 [西南官話四川]

- 彼 まだ 遊ぶ ASP MOD
 [彼はまだ遊んでいる。] (他还玩着呢。)
- (147) 书 在 柜子 头 锁 起 在。 [西南官話四川]
 本 PREP 棚 中 鍵を掛ける ASP MOD
 [本は棚にロックされている。] (书在柜子里锁着呢。)
- (148) 包包 在 墙壁 上 挂 起 在。 [西南官話四川]
 カバン PREP 壁 上 掛ける ASP MOD
 [カバンは壁に掛けてある。] (提包在墙上挂着呢。)

諸東南方言における「在」+場所名詞を用いる文は次のようなA、B、C、Dという4つのタイプに分けられる。「地理的に見た共時的な差異は、歴史変化の異なる段階を反映するものである」(工藤 2001) ことから、この4つのタイプはA>B>C>Dのような経路に位置づけられる。

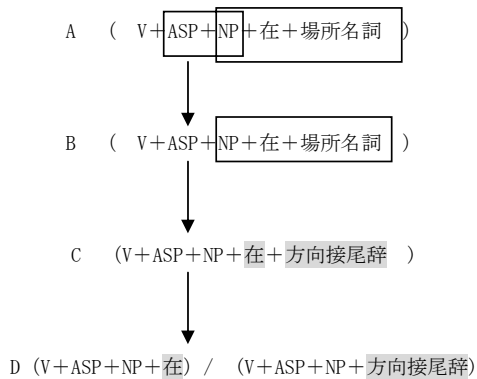


図 7 場所詞句における空間表現からモダリティ表現への発展経路

まず、(A) タイプでは、「在+場所名詞」が動作客体の存在場所を指し示す。動作の働きかけを受けて、動作客体 (NP) が特定の場所に留まるという継起的に生じた出来事を表す。蔡橋方言の「倒」をはじめ、多くの湘語のT類助詞は「主体動作・客体変化動詞」、「主体変化動詞」に接続し、(A) タイプの文型に用いられる。方言によっては、「起」が「倒」の使用領域に進出しているという「プラグマティックな推論」による語彙の交替も起きている。

次に、(B) タイプは (A) タイプと同じ表層構造を持っているが、深層構造が異なっている。場所詞句（「在+場所名詞」）が動作客体の存在場所を指し示すものではなく、「動作持続」を表す表現となっている。場所詞句の空間指示性が弱化した結果となった。(A) から (B) への発展においては、動詞のタイプ化が重要な役割を果たしている。(A) タイプの文型には使えない「主体動作動詞」、たとえば、「吃」(食べる)、「讲」(話す)などが (B) タイプの文型に使われるようになる。

さらに、(C) タイプでは、具体的な場所を指し示す場所名詞が「果里」(ここ)、「嗯里」(そこ) などのような指示代名詞に代用されたり、「桌子上」(テーブルの上) における名詞「桌子」(テーブル) が落とされ、方向辞「上」(上) のみが残されている。たとえば、呉語の「在里」においては存在場所という空間的意味が薄れているといわれている。

最後に、(D) タイプでは、「存在」を表す前置詞「在」、もしくは「方向を表す」接尾辞、たとえば、「里」(中)、「上」(うえ)、「下」(した) のみが残される。成都方言、武漢方言などの西南官話はこのタイプに属する。これらの方言では、前置詞「在」のみが文末に残され、「存在する」の意味も「持続」の意味も表さず、発話者の確認のモダリティを表す語気助詞となっている。北京語などの官話方言では、逆に「在」が脱落され、「里」のような「方向を表す接尾辞」のみが文末に残されるという変化を成し遂げている。現代北京語における語気(モダリティ)助詞「呢」は接尾辞「里」を本字とし、「空間表現」から「モダリティ表現」へと発展してきたものであるといわれる。

以上、漢語東南方言においては、モノの存在位置を意味する場所詞句「在」＋場所名詞が「空間表現 > 時間表現 > モダリティ表現」という変化経路を辿ったことが分かった。

“在”のような元々人や物の「存在」を表す動詞がアスペクト表現、さらにモダリティ表現へと文法化する現象は、漢語方言以外の言語にも観察されている。たとえば、多くの日本語方言では、「人の存在」を表す動詞とアスペクト表現が対応しているといわれる。

どの方言を見ても、アスペクト表現は<人の存在>を表す本動詞との間に対応がある。たとえば、人の存在に「イル」を用いる地域ではアスペクト表現にも「テイル」を用い、人の存在に「オル」を用いる地域ではアスペクト表現にも「ヨル・トル（オル・テオル）」を用い、人の存在に「アル」を用いる地域ではアスペクト表現にも「ヤル・タール（アル・テアル）」を用いる（工藤真由美代表 2000）。…このことから、アスペクト表現は「アル」「イル」「オル」「ゴザル」などの<人の存在>を表す動詞が文法化していく過程として捉えることができる。（木部 2005:79）

また、これまで多く報告されてきた西日本方言や沖縄方言などにおける「継続性」と「目撃性」の相関性は中国の東南方言におけるアスペクトの意味と場所詞句との共起関係を考えるに際して示唆的である。西日本方言については、工藤（2001）が次のように指摘している。

西日本諸方言でも<痕跡><直前>の場合には、<痕跡の目撃><兆候の目撃>というかたちでアスペクトとムードが絡み合っているが、古い形式を残していると思われる八丈方言や沖縄方言ではさらに、<進行><結果>というアスペクトの意味と<話し手の目撃>というムードの意味とが絡み合った形式が存在しているのである。（工藤 2001 : 160-161）

沖縄首里方言については、津波古（1989）が次のように指摘している。

第二継続相のかたちは、あたえられた動作が<わたし>によって目撃されたものであることを<証言>することができるが、……第二継続相のかたちが<証言>にもちいられる、このような事実はこのかたちに<臨場性>あるいは<目撃性>という意味特徴が備わっているからだろう。この<証言性>は<目撃性>がムードのカテゴリーにちかいことをものがたっていて、この事実はアスペクトがムードとからみあっていることをものがたる。（工藤 2001 : 11 より二次引用）

空間表現がアスペクト表現、モダリティ表現へと変化する現象は漢語方言の枠を超え、標準日本語および日本語方言に視野を広げて見れば、漢語方言に特殊なものではなく、一つのユニバーサルな現象であると分かる。

4. おわりに

以上、比較の視点から、湘語諸方言における完了、持続を表すアスペクト表現を考察した。次のようなことがわかる。

まず、K類助詞の意味用法については、南部湘語と北部湘語は異なる特徴を持っている。南部湘語のK類助詞は数量補語がなければ、目的語を後ろに伴うことができないことや先行動詞の意味的制限を受けることなどから、長沙方言などの北部湘語に比べて結果補語に共通する一面を持っている。次に、湘語のT類助詞は文法機能上、場所前置詞“到”と相補関係を成しており、“到”から発展してきたものであると考えられる。“到”は古代漢語“著”の場所名詞を導く機能を受け継いだが、その<空間性>が剥脱された結果、アスペクトの意味を獲得し、音声的变化を起こして“倒”になった。“倒”は「主体変化動詞」を更なる文法化の出発点として、場所詞句（「在」＋場所名詞）の<空間性>を介して文全体に「パーフェクト性」を与える。さらに、「主体動作・客体変化動詞」、「主体動作動詞」と結合する中で、<空間性>が再び剥脱され、「動作持続」を表すアスペクト助詞となった。最後に、“起”は多くの湘語に用いられるアスペクト助詞であり、「動作持続」を表せず、「結果状態の持続」を表す。南部湘語では「主体変化動詞」に接続する場合、“起”とT類助詞“倒”との競合が起こるが、「主体動作・客体変化動詞」においてはこのような競合が起こらない。

この点について、北部湘語のT類助詞の文法化の度合いは北部湘語のそれに比べて一歩進んで、“起”との競合がすべての動詞に起きており、「結果状態の持続」の意味領域を侵食している。

※ 方言データの引用文献

方言類	地点名	文献・著者 (出版年月)
湘語	長沙	『湘方言動態助詞の系統及其演變』・伍云姬 (2006) 『長沙方言の動態助詞系統』・伍云姬 (1996)
湘語	湘潭	「湘潭方言の動態助詞」・曾毓美 (1996)
湘語	湘鄉	「湘鄉方言の幾個動態助詞」・王芳 (1996)
湘語	漣源	「漣源方言(橋頭河区)動態助詞研究」・陳暉 (1996)
湘語	衡陽	「衡陽方言の動態助詞」・彭蘭玉 (1996)
湘語	益陽	『益陽方言語法研究』・徐慧 (1996)
湘語	邵陽	「邵陽方言語法研究」・趙烈安 (1996)
湘語	辰溪	「辰溪方言の動態助詞」・謝伯端 (1996)
湘語	隆回	「隆回方言の動態助詞」・丁加勇 (1996)
湘語	綏寧	「綏寧方言の動態助詞概述」・曾常紅 (1996)
湘語	婁底	「婁底方言の動態助詞」・彭逢澍 (1996)
湘語	常寧	「常寧方言の動態助詞研究」・吳啟主 (1996)
湘語	新化	『湘方言動態助詞的系統及其演變』・伍云姬 (2006)
湘語	祁陽	『湘方言動態助詞的系統及其演變』・伍云姬 (2006)
西南官話	四川	「成都話的動態助詞“倒”和“起”」・張清源 (1991)
贛語	攸縣	「攸縣方言的動態助詞」・董正誼 (1996)

注

1. 調査の詳細は王振宇 (2009) 参照。本稿用例の話者情報は次のとおりである。調査記号:WSD。年齢:52歳。出身地:蔡橋郷。長期外歴:なし。職業:小学校教員。教育程度:高校。話せる言語:蔡橋方言;標準語。
2. 本稿で使用する記号について、ASPはアスペクト助詞、MODは語気助詞、NEGは否定詞、PREPは前置詞を表す。
3. 用例番号の後に付した「*」はそのような表現が存在しないことを示す。
4. 蔡橋方言の動詞分類については王振宇 (2011) を参照されたい。

参考文献

【中国語文献】

- 鮑厚星・崔振華・沈若云・伍云姬 (1998) 『長沙方言研究』。湖南教育出版社。
 鮑厚星・陳暉 (2005) 「湘語的分区(稿)」, 『方言』第3期。
 鮑厚星 (2006) 『湘方言概要』。湖南師範大學出版社。
 陳暉 (1999) 『湖南方言研究叢書漣源方言研究』。湖南教育出版社。
 儲澤祥 (1998) 『邵陽方言研究』。湖南教育出版社。
 崔振華 (1998) 『瀏陽方言研究』。湖南教育出版社。
 戴耀晶 (1997) 『現代漢語時體系統研究』。浙江教育出版社。
 彭澤潤 (1998) 『衡山方言研究』。湖南教育出版社。

- 夏剑钦 (1998) 『浏阳方言研究』。湖南教育出版社。
- 李蓝 (1998) 「贵州大方话的“到”和“起”」, 『中国语文』 1998年第2期。
- 李小凡 (1997) 「苏州方言中的持续貌」, 『语言学论丛』 (第19辑)。商务印书馆。
- 李维琦 (1998) 『祁阳方言研究』。湖南教育出版社。
- 刘丹青 (1996) 「东南方言的体貌标记」, 张双庆主编『中国东南部方言比较研究丛书第二辑动词的体』。香港中文大学中国文化研究所。
- 卢小群 (2007) 『湘语语法研究』。中央民族大学出版社。
- 罗听如 (1998) 『新化方言研究』。湖南教育出版社。
- 罗听如 (2004) 「湖南方言的“在N”」, 『汉语学报』 2004年第1期。
- 罗听如 (2008) 「湖南方言中的“动词+动态助词+介宾短语”句型」, 『方言』 2008年第4期。
- 梅祖麟 (1988) 『汉语方言里虚词“著”字三种用法的来源』, 『中国语言学报』 1998年第3期。
- 梅祖麟 (1994) 「唐代、宋代共同语的语法和现代方言的语法」, 『中国境内语言暨语言学』 1994年第2期。
- 石汝杰 (1996) 「苏州方言的体和貌」, 張雙慶主編『動詞的體—中國東南方言比較研究叢書第二輯—』。香港中文大學中國文化研究所吳多泰中國語文研究中心。
- 吴福祥 (1998) 「重谈“动+了+宾”格式的来源和完成体助词“了”的产生」, 『中国语文』 1998年第6期。
- 伍云姬 (1996) 「长沙方言动态助词的系统」, 『湖南方言的动态助词』。湖南师范大学出版社。
- 伍云姬主编 (1996) 『湖南方言的动态助词』。湖南师范大学出版社。
- 徐丹 (1992) 「汉语里的“在”与“着”」, 『中国语文』 1992年第6期。
- 徐慧 (2001) 『益阳方言语法研究』。湖南教育出版社。
- 张清源 (1991) 「成都话的动态助词“倒”和“起”」, 『中国语言学报』 1991年第4期。
- 【日本語文献】
- 井上優 (2002) 「「テンスの有無」と文法現象—日本語と中国語—」, 『次世代の言語研究Ⅱ』。筑波大学現代言語学研究会。
- 木部暢子 (2005) 「日本語の中の「九州方言」・世界の言語の中の「九州方言」 東西対立のなかの九州方言—アスペクト—」, 『日本語学』 VOL. 24
- 木村英樹 (1981) 「「付着」の“着/zhe/”と「消失」の“了” /le/」, 『中国語』 7月号。大修館書店。
- 木村英樹 (1982) 「テンス・アスペクト 中国語」, 『講座日本語学 11 外国語との対照Ⅱ』。明治書院。
- 工藤真由美 (1995) 『アスペクト・テンス体系とテキスト—現代日本語の時間の表現』。ひつじ書房。
- 工藤真由美 (2001) 「アスペクト体系の生成と進化—西日本諸方言を中心に—」, 『ことばの科学 10』。言語学研究会。
- 丸尾誠・張勤 (2001) 訳「中国語における「在」と「着(著)」」, 『中国語言語学情報 4 テンスとアスペクトⅢ』。好文出版。
- 王振宇 (2009) 「蔡橋方言における母音の変遷について」, 『地域政策科学研究』 6号。鹿児島大学人文社会科学研究所。
- 王振宇 (2011) 「蔡橋方言におけるアスペクト助詞“倒”について」, 『ポリグロシア』 Vol. 20。立命館アジア太平洋大学太平洋研究センター。